四　漢文読解法

【手順】

① 設問チェック
　＊ 句法・語法で解けるもの＝即解答
　＊ 絞れる選択肢は絞っておく
　＊ その他は何をきかれているかを確認
② 注マーク確認
③ 前書きの有無確認→あれば必ずきちんと読むこと
（④ 出典確認）

【設問別解法】

〈単語の意味〉

・仲間外れの選択肢が一つだけ＝それが解答

〈例題一〉 次の中から「過」の意味が異なるものを選べ。

ア　過度　　イ　過酷　　ウ　過失　　エ　過剰　　オ　超過

・二字熟語にして意味を類推する

〈例題二〉 次の傍線部のここでの意味と同様の意味を表す熟語として最も適当なものを選べ。

好ミテ二行幸ヲ一不レ息、人ノ所レ不ルレ堪ヘ。

ア　棲息　　イ　利息　　ウ　嘆息　　エ　終息

〈書き下し文〉

・基本構造＝語順確認→送り仮名確認
・重要句法確認
・傍線部の前後に**対句・対文**がないか確認
・訳してみて意味不明な場合＝誤り
・選んだ訳を本文中にあてはめ、文脈確認

〈理由〉

・傍線部自体を正確に訳す
　➡**傍線部を本文で確認**＝設問箇所では白文でも、本文中には返り点や送り仮名がついていることもある（左記の解釈・部分説明も同様）。
・傍線部の前後に注目

〈解釈・部分説明〉

・傍線部を含む一文全体を読む
・指示語があれば指示内容を明確にする
・傍線部前後の文脈を確認

〈主張・主題〉

・**結末部**

五　次の詩を読んで、次の**問**に答えよ。（設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。）

放鷹　白居易

①十月鷹出籠、　②草枯雉兎肥。

③下韝（注1）随指（注2）顧、　④百擲（注3）無一 **A** 。

⑤鷹翅疾如風、　⑥鷹爪利如錐。

⑦B本為鳥所設、　⑧今為人所資。

⑨C孰能使之然、　⑩有術甚易知。

⑪D取其向背性、　⑫制在飢飽時。

⑬ 不レ可カラレ使ム二長ク飽カ一、

⑭ 不レ可カラレ使ム二長ク飢ヱ一。

⑮ 飢ウレバ則チ力不レ足ラ、

⑯ 飽ケバ則チ背キテレ人ニ飛ブ。

⑰ 乗ジテレ飢ヱニ縦ゆるシ二搏はく（注4）撃スルヲ一、

⑱ 未ダレ飽カ（ルトキ）須ク（シ）二縶ちふ（注5）維ゐス一。

⑲ 所以ゆゑニ爪さう翅しノ功アルモ、

⑳ 而人坐ざシテ収ムレ之ヲ。

㉑ 聖明ノ馭ぎょスル二英雄ヲ一、

㉒ 其ノ術モ亦また如シレ斯かクノ。

㉓ E鄙ひ語不レ可カラレ棄すツ、

㉔ 吾聞ケリ二諸これヲ猟師ニ一。

（『白香山詩集』による）

（注）1 韝――鷹を止まらせるために腕につける革具。　2 指顧――指さし顧みること。指示。

3 擲――投げ放つ。　4 搏撃――襲いかかる。　5 縶維――つなぐ。

問一 空欄 **A** に入る語として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 中　イ 遺　ウ 敗　エ 至　オ 失

問二　この詩の中には対句が用いられている。次の組み合わせの中から双方とも対句であるものを選ぶとすれば、どれが最も適当か。次の中から一つ選べ。

ア　①②と⑪⑫　　イ　⑤⑥と⑮⑯　　ウ　⑦⑧と⑬⑭

エ　⑬⑭と⑮⑯　　オ　⑰⑱と㉑㉒

問三　傍線部Ｂ「本為㆓鳥所㆒㆑設、今為㆓人所㆒㆑資」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　鷹は、もともと獲物を捕る才能を備えており、今も人のために役立っている。

イ　小鳥は、もともと鷹が食料としていたものであるが、今では人が食料としている。

ウ　雉(きじ)や兎(うさぎ)は、もともと鷹のために天が授けたものであるが、今は人の食料となっている。

エ　翼や爪は、もともと鷹のためにつけられているものなのに、今は人に利用されている。

オ　鷹狩りは、もともと鷹の訓練のために始められたものであるが、今では人の娯楽となっている。

問四　傍線部Ｃ「孰能使㆓之然㆒」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　孰(たれ)ぞ能(よ)く之を然らしめん　　イ　孰(たれ)の能(のう)か之(ゆ)きて然らしめん

ウ　孰(たれ)か能(よ)く之をして然らしめん　　エ　孰(いづ)くんぞ能(よ)く之を然りとせしめん

オ　孰(いづ)れの能(のう)か之をして然らしめん

問五　傍線部Ｄ「取㆓其向背性㆒」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　獲物が鷹を恐れて背を向ける習性を利用する。
イ　鷹が何を好んで何を嫌うのかをよく見て取る。
ウ　鷹が獲物の背後に向かう性質をよく読み取る。
エ　鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用する。
オ　鷹狩りの際に方角や位置に利があるかないかを読み取る。

問六　傍線部Ｅ「鄙語不㆑可㆑棄」とあるが、なぜ作者はこのように言っているのか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　単に鷹狩りの話ではあるが、弱肉強食の人間界を風刺しているから。
イ　無味乾燥な政治の話ではあるが、純朴な猟師に聞かせても納得したから。
ウ　一介の猟師から聞いた話ではあるが、実に動物の習性を研究し尽くしているから。
エ　私のような門外漢の観察記ではあるが、猟師に聞いても間違っていなかったから。
オ　猟師から耳にした卑俗な話ではあるが、名君と臣下との関係を示唆しているから。

第8講　確認問題

① 次の詩を読んで、後の問に答えよ。

*1江楼夕望招(ク)レ客(ヲ)

第1句　海天東望夕*2茫(ばう)茫(ばう)

第2句　山勢川闊復長

第3句　灯火万家城(ノ)四畔

第4句　星河一道水(ノ)中央

第5句　風(ハ)吹(ク)二古木(ヲ)一晴天(ノ)雨

第6句　月(ハ)照(ラス)二平沙(ヲ)一夏夜(ノ)霜

第7句　*3能(よク)*4就(つキテ)二江楼(ニ)一銷(けスヤ)レ暑(ヲ)否(いなヤ)

第8句　*5比(スレバ)二君(ガ)*6茅(ばう)舎(しゃニ)一校(やや)清涼(ナラン)

（白居易『白氏文集』）

［注］
＊1　江楼＝江(かわ)のほとりのたかどの。
＊2　茫茫＝ひろびろとしている。
＊3　能…否＝…することができますか？
＊4　就＝（場所）で。
＊5　比…校…＝…にくらべて少しは…。
＊6　茅舎＝茅葺(かやぶ)きの家。

この詩には二組の対句がある。その組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　第１句と第２句　　第３句と第４句
イ　第２句と第４句　　第５句と第６句
ウ　第３句と第４句　　第５句と第６句
エ　第４句と第５句　　第６句と第７句

② 傍線部について、空欄に入る語として最も適当なものを、次の中から選べ。

銅（どう）雀（じやく）台（だい）ノ址（あと）頽（くづ）レテ無レシ遺（のこ）ス　何ゾ乃チ剰（じよう）瓦（が）ノ多キコト如レクナラン斯クノ

文士例（おほむね）有リ二好レムノ奇ヲ癖一　心ニ知ルモ二其ノ妄ナルヲ一姑（しばら）ク自ラ□

ア 愉　イ 娯　ウ 詐　エ 欺　オ 虚

③ 詩を読んで、次の問に答えよ。

春江　（唐）白(はく)居(きょ)易(い)

① 炎(えん)(注1)涼(りやう)昏(こん)暁(げう)苦(はなはダ)推(注2)遷シ
② 不レ覚エ忠(注3)州ニ已(すで)ニ二年
③ 閉(注4)ザシテレ閣ヲ只(ただ)聴ク朝(注5)暮ノ鼓(つづみ)
④ 上楼空望往来船
⑤ 鶯(あう)声(せい)ニ誘(いう)引(いん)セラレテ来タリ二花下ニ一
⑥ 草色ニ勾(こう)留(りう)セラレテ坐ス二水辺ニ一
⑦ 唯有春江看未厭
⑧ 縈(めぐ)リレ砂ヲ遶(めぐ)リテレ石ヲ緑潺(せん)(注6)湲(ゑん)タリ

（『白氏文集』巻十八による）

（注）
1　炎涼昏暁——暑さと寒さ、夜と朝。　2　推遷——移り変わる。
3　忠州——今の四川省忠県。作者はここに左遷され、二年間の役人生活を送った。
4　閉ㇾ閣——建物にとじこもること。　5　朝暮鼓——朝夕の時刻を知らせる太鼓の音。
6　潺湲——水のさらさら流れるさま。

三、四句が対句になっていることに留意しつつ、四句目の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　楼に上りて空しく望む往来の船
イ　楼に上りて空望するや往来の船
ウ　楼を上りて空より望めば往来の船
エ　楼を上りて空しく望めば船往来す
オ　楼に上りて空より望めば船往来す

〈Memo〉

第８講　解答

〔例題一〕ウ

〔例題二〕エ

五

問一　イ　問二　ウ　問三　エ　問四　ウ　問五　エ　問六　オ

〔現代語訳〕

五

十月に鷹は籠を出て、草は枯れて雉や兎は肥えふとる。
鷹は腕につける革具から下りて猟師の指示に従い、百回投げ放って一度も失敗することはない。
鷹の翼は風のように速く、爪は錐のように鋭い。
翼や爪は、もともと鷹のためにつけられているものなのに、今は人に利用されている。
誰が鷹にそのようにさせる（人のために狩りをする）ことができるのか、じつはとてもわかりやすい術がある。
鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用し、飢えている時や満腹の時に制御するのである。
長く満腹にさせてはいけないし、長く飢えさせてもいけない。
飢えると鷹は力が足りず、満腹になれば人に反抗して飛び去ってしまう。
飢えを利用して襲いかからせ、まだ満腹になる前に必ず繫がなければならない。
こういう理由で爪と翼によって手柄を立てるのだが、人はいながらにしてこの手柄を自分のものにする。
優れた君主が優れた臣下を操る術も、やはりこのようである。
卑しいものが語った話も捨てるべきではない、私はこの話を猟師に聞いた。

第８講　確認問題　解答

〔解説〕

① **律詩**は**３・４**句目と**５・６**句目のどちらかは**対句**。なので、可能性が高いそれらから確認すると、どちらも返り点の打ち方が同じで構成要素も同じ。よって、正解はウ。

② **押韻**の問題。**七言詩**なので、**初句と偶数句の最後の文字**「遺」＝i、「斯」＝shiと共通する音の響き「-i」となるものを選ぶ。アはyu。イはgo。ウはsa。エはgi。オはkyo。よって、正解はエ。

③ 対句する④の読み「閣を閉ざして只だ聴く朝暮の鼓」と同じ構造にならなければいけない。④の最後の三文字「往来船」は「往来の船」になる。よって、ア、イ、ウのどれかに絞る。四文字目の「望」は、③の「聴く」より動詞の終止形となる。「閣**を**」の送り仮名より、ウ「楼**を**」を選んだ人もいるかもしれないが、「空より望めば」の読みと「只だ聴く」は同じとは言い難い。やはり「空しく望む」と「只だ聴く」が同じ構造と考えられる。したがって「楼**に**」ではあるが、アが正解。ちなみに、五・六句も対句である。

〔解答〕

①　ウ　②　エ　③　ア